

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	桃山学院大学工学部新棟	階数	地上5F
建設地	大阪府和泉市まなび野	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年6月30日
敷地面積	39,699 m ²	作成者	東畑建築事務所 坂口文彦
建築面積	1,205 m ²	確認日	2025年6月30日
延床面積	5,671 m ²	確認者	東畑建築事務所 坂口文彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q スコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR スコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>新学舎は、工学×情報・データサイエンスと、ビジネスの領域も含めた多様な文理を横断した学びの場とする。その他、企業と連携した授業や課題解決などの「多角的な視点と主体的な姿勢を醸成する教育」を実現するために、教室内部にとまらない主体的な学びの促進と交差を生み出す施設の計画を目指す。また、既存の植生を活かした外構計画と周辺建物と調和した外装計画により、既存のキャンパス景観を継承し、高める施設とする。</p>		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
教育施設としての音環境・温熱環境に配慮し、遮音性能の高い建具や壁等を採用。	階高を各階4.0m以上確保し、空間のゆとりを配慮している。また、学校としての耐久性を確保することのできる内装材を採用している。	周辺環境からの眺望に配慮するとともに、沿道緑化を積極的に行うことで、緑化環境の向上にも努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物の熱負荷抑制に配慮するとともに、高効率な設備機器を使用している。	節水型の衛生器具を導入や非構造材においてリサイクル材の利用を行っている。	舗装は全天候型舗装とすることで、砂塵の抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.4

【建物概要】 建物名称		桃山学院大学工学部新棟					
建設地		大阪府和泉市まなび野					
用途/区分		学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				B+	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★☆☆				1	
③	断熱性能	★★★★★				5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
④	エネルギー消費性能	★★★★★				5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
	非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	★★★★☆		4			
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	1
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					1.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					1.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.7	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							